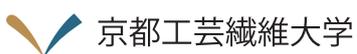


平成29年度

京 都 三 大 学
教 養 教 育 共 同 化 科 目
受 講 案 内



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences



京都工芸繊維大学



京都府立大学



京都府立医科大学

目次

学生のみなさんへ 1

共同化科目の履修について 3
(授業日・開講場所・休講基準等)

平成29年度 共同化科目一覧 4

平成29年度 授業科目の履修定員 5
(前期・後期・集中開講)

各科目概要 7

キャンパスガイド 24

平成29年度 共同化科目開講時間割 29

学生のみなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら京都北山地域の特性を生かして共同することによって、飛躍的に充実した教養教育プログラムを実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養（リベラル・アーツ）教育では、科目群を拡充して選択の幅を広げ、学生のみなさんの多様な関心・学修要求に応えるように工夫しています。学生のみなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察し的確に判断できる力や人としての豊かな感性を培うよう求めます。また、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を勉学や学生生活に活かし、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

I. 目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々な課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのではなく、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりくむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問体系のそれぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

B. 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の経験や思想など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること。

日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求め、何が正しく何が真実か、何を目指すべきかなどを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のスキルを研鑽しながら、批判的検討や討論を遂行する力を養い、人とかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

1. 共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。また、上記課題 C に狙いをおいた少人数の「リベラルアーツ・ゼミナール」を設けます。
2. 伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業やさらに自然環境など、京都に歴史的に生きている諸財産やその現代における展開をとりあげ、京都という地の特色を諸側面から学びます。そして、この地域のなりわいの理解を通して、これからの地域・街・生活・文化のあるべき姿を検討します。

II. 実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、**A. 幅広い基礎的知識の修得**、**B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感じ思考する**、**C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する**、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

なお、平成29年度から上回生対象の科目も増やし、学士課程を通じた教養教育の充実を図っています。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1 単 位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2 授業日

下表のとおり、原則として月曜日に開講されます。月曜日が休祭日に伴う他の曜日への振替もありますので、注意してください。前後期とも最終週が試験日になります。

前 期	平成29年 4月：10日、17日、24日 5月：1日、8日、15日、22日、29日 6月：5日、12日、19日、26日 7月：3日、10日、24日、31日（試験日）	後 期	10月：2日、16日、23日、30日 11月：6日、13日、20日、27日 12月：4日、11日、18日 平成30年 1月： <u>9</u> （火）、15日、22日、29日 2月：5日（試験日）
-----	--	-----	---

3 授業時間

月曜日に行われます。（各授業科目の開講時限（コース）は、巻末の時間割を参照のこと。）

時限(コース)	1	2	3	4	5
時間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

4 開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」にて開講されます。

5 履修の手続き

4～5頁の「平成29年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6 試 験

定期試験は、上記2に掲げた「試験日」に、それぞれ授業の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

7 休講基準

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一つに該当する場合は授業を休講とします。

- ① 京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
- ② 京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
- ③ JR西日本(京都駅発着の在来線)、阪急電鉄(梅田－河原町間)、京阪電鉄(淀屋橋又は中之島－出町柳間)及び近鉄(西大寺－京都間)の4交通機関のうち3以上の運行が停止の場合

警報の解除又は交通機関の運行再開（以下「解除等」という。）に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

- ① 午前 6時30分までに解除等となった場合・・・平常どおり授業を実施
- ② 午前10時30分までに解除等となった場合・・・午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

平成29年度 共同化科目一覽

科目群	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分		
				A	B	C
人間と歴史	哲学	工・伊藤	後	○	○	
	比較宗教学	工・長岡	前	○	○	
	宗教と文化	医・田中	後	○	○	
	日本史	工・鬼頭	前	○		
	東西文化交流史	工・カテシ	後	○	○	○
	アジアの歴史と文化	府・井上	前	○	○	
	ヨーロッパの歴史と文化	府・阿部ほか	後	◎	○	
	ラテン語	医・松本	後	○	○	
	西洋文化論	工・山下太	後	○		○
	日本文学Ⅰ	医・早川	前	○		
	日本文学Ⅱ	工・早川	後	○		
	日本近現代文学	工・高木	前	○	○	
	西洋文学論	工・山下大	前		○	
	文芸創作論	医・藤田	後		○	
	美と芸術	工・三木順	前	○	○	
	日本近代精神史	工・伊藤	前	○	○	
	フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工・吉川	前(午前)	○	○	
	映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府・出口	後(午前)		○	
	映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府・青地	前(午前)		○	
	京都学	京都の歴史Ⅰ	府・菱田ほか	前	○	○
京都の歴史Ⅱ		府・小林ほか	後	○	○	
京都の文学Ⅰ		府・赤瀬	前	○	○	
京都の文学Ⅱ		府・赤瀬	後	○	○	
京の意匠		工・並木	後	○	○	○
英語で京都(※3回生以上)		機構・金澤	後	◎	○	
京都学 歴史ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)		機構・藤本ほか	後(午前)		○	○
リベラルアーツ・ゼミナール	現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機構・田村	集中・夏	◎	○	
	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機構・桑子	集中・夏	○	○	
社会科学の基礎	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧科学と思想)	工・林	後	○	◎	
	京都学 歴史ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)(再掲)	機構・藤本ほか	後(午前)		○	○
	人文地理学Ⅰ	医・阿部ほか	前	○	○	
	人文地理学Ⅱ	医・春日	後	○	○	
	社会学Ⅰ	府・井口	前	○	○	○
	社会学Ⅱ	府・井口	後	○	○	○
	政治学	工・竹本	後	○	○	○
	国際政治	府・依田	前	◎	○	○
	経済学入門	工・人見	後	○		
	生活と経済心理学	府・小沢	後	○	○	
人間と社会	発達心理学	医・小川	集中・夏	○	○	
	現代社会と心	府・石田	後	○	○	
	現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	前	◎	○	
	人権教育	工・杉本	前	○	○	
	現代教育論	工・堀屋	前	○	○	
	食環境をめぐる国際社会と日本	府・宗田ほか	前		○	
	環境と法	工・鳥谷部	後	◎	○	○
	近代京都と三大学	機構・宗田ほか	前		○	
	京の産業技術史	工・山田	後		○	
	現代京都論	府・大島	前		○	
京都学	医史学	医・八木	前	◎	○	
	京都の経済	府・川勝	後		○	
	現代社会に学ぶ陶工・書か(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)	機構・児玉	前・後		○	○
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅡ)	機構・児玉	後	◎	○	
	現代社会と映画制作(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機構・長坂	集中・夏	◎	○	
	アメリカと中国はいま(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅤ)	機構・脇田	集中・冬	○	○	
	経営哲学(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(※2回生以上)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機構・児玉	前	◎	○	
人間と自然	物理学Ⅰ	府・春山	前	○		
	化学概論Ⅰ	工・三木定	前	○		
	化学概論Ⅱ	工・石川	後	○		
	生物学概論Ⅰ	工・疋田	前	○		
	生物学概論Ⅱ	工・疋田	後	○		
	生命科学講話	府・塚本ほか	集中・夏	○	○	
	地球の科学	工・酒井	後	○	○	

科目群	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分			
				A	B	C	
人間と自然(25科目)	人間と自然科学	人と自然と数学α	工・峯	前	○	○	○
		人と自然と数学β	工・朝田	後	○	○	○
		人と自然と物理学	工・萩原ほか	後	○	○	○
		生物学的人間学	医・小野ほか	前	○		
		意外と知らない植物の世界	機構・松谷ほか	後	○	○	○
		科学史	工・大西	後	○	○	○
		環境問題と持続可能な社会	工・山田	前	○	○	○
		食と健康の科学	府・東ほか	前	◎	○	
		キャンパスヘルス概論	工・荒井	前	○	○	○
		時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む))	医・八木	集中・夏	○	○	○
	京都学	エネルギー科学	工・林	前	◎	○	
		現代科学と倫理	府・岩崎	前		○	
		医学概論(※2回生以上の工職大・府大生が対象)	医・渡邊ほか	後(午前)	○		
		環境論	機構・田中	後(午前)	◎	○	
		京都の自然と森林	府・高原ほか	前		○	
		京都の農林業	府・寺林ほか	後		○	
		京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)	府・間藤	集中		○	
		製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機構・石田	後		○	○
		京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)(再掲)	府・間藤	集中	○		
		合計80科目					
リベラルアーツ・ゼミナール(11科目)	(再掲)	京都学 歴史ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機構・藤本ほか	後(午前)		○	○
	科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧科学と思想)	工・林	後	○		◎	
	現代社会に学ぶ陶工・書か(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)	機構・児玉	前・後		○	◎	
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅡ)	機構・児玉	後		◎	○	
	経営哲学(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(※2回生以上)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機構・児玉	前	◎		○	
	製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機構・石田	後		○	○	
	現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅤ)	機構・田村	集中・夏		◎	○	
	感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機構・桑子	集中・夏		○	○	
	現代社会と映画制作(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機構・長坂	集中・夏		◎	○	
	アメリカと中国はいま(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅤ)	機構・脇田	集中・冬		○	○	
京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)	府・間藤	集中	○				
京都学(15科目)	(再掲)	京都の歴史Ⅰ	府・菱田ほか	前	○	○	
	京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	○	○		
	京都の文学Ⅰ	府・赤瀬	前	○	○		
	京都の文学Ⅱ	府・赤瀬	後	○	○		
	京の意匠	工・並木	後	○	○	○	
	英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	後		◎	○	
	京都学 歴史ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機構・藤本ほか	後(午前)		○	○	
	近代京都と三大学	機構・宗田ほか	前		○		
	京の産業技術史	工・山田	後		○		
	現代京都論	府・大島	前		○		
医史学	医・八木	前	◎	○			
京都の経済	府・川勝	後		○	○		
京都の自然と森林	府・高原ほか	前		○			
京都の農林業	府・寺林ほか	後		○			
京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)	府・間藤	集中	○				
2回生以上向け開講(8科目)	(再掲)	フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工・吉川	前(午前)	○	○	
	映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府・出口	後(午前)		○		
	映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府・青地	前(午前)		○		
	英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	後		◎	○	
	京都学 歴史ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機構・藤本ほか	後(午前)		○	○	
	経営哲学(リベラルアーツ・ゼミナールⅠ)(※2回生以上)(旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機構・児玉	前	◎		○	
	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む))	医・八木	集中・夏	○		○	
	医学概論(※2回生以上の工職大・府大生が対象)	医・渡邊ほか	後(午前)	○			

担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。)

工：京都工芸繊維大学、府：京都府立大学、医：京都府立医科大学、機構：京都三大学教養教育研究・推進機構

授業目的区分(○は該当するもの、◎は特に強調するもの)

A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B：世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。

平成29年度 授業科目の履修定員

共同化科目について、下表のとおり科目ごとに科目定員が定められ、各大学の定員枠も設定されています。

履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

なお、皆さんの履修希望がより多く実現できるよう、履修登録の状況を踏まえ、各大学の定員枠を調整したり、科目定員を変更したりする場合があります。

履修登録の際には、前後に履修する授業に支障が出ないように、また、安全に移動できるよう、共同化施設までの交通手段や所属大学からの所要時間を十分考慮するようにしてください。

前期 授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
比較宗教学	工・長岡	174	87	58	29
日本史	工・鬼頭	99	50	33	16
アジアの歴史と文化	府・井上	99	37	50	12
日本文学Ⅰ	医・早川	99	29	20	50
日本近現代文学	工・高木	99	50	33	16
西洋文学論	工・山下大	99	50	33	16
美と芸術	工・三木順	174	87	58	29
日本近代精神史	工・伊藤	99	50	33	16
フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工・吉川	30	15	10	5
映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府・青地	30	11	15	4
京都の歴史Ⅰ	府・菱田ほか	299	113	149	37
京都の文学Ⅰ	府・赤瀬	99	37	50	12
人文地理学Ⅰ	医・阿部ほか	120	36	24	60
社会学Ⅰ	府・井口	120	45	60	15
国際政治	府・依田	99	37	50	12
心理学	工・大谷	196	98	66	32
現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	120	45	60	15
人権教育	工・杉本	99	50	33	16
現代教育論	工・塩屋	174	87	58	29
食環境をめぐる国際社会と日本	府・宗田ほか	120	45	60	15
近代京都と三大学	機構・宗田ほか	99	33	33	33
現代京都論	府・大島	120	45	60	15
医学史	医・八木	204	58	39	107
現代社会に学ぶ問う力・書く力a(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・児玉	30	10	10	10
経営哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機構・児玉	30	10	10	10
物理学Ⅰ	府・春山	99	37	50	12
化学概論Ⅰ	工・三木定	99	50	33	16
生物学概論Ⅰ	工・疋田	99	50	33	16
人と自然と数学α	工・峯	120	60	40	20
生物学的人間学	医・小野ほか	204	61	41	102
環境問題と持続可能な社会	工・山田	174	87	58	29
食と健康の科学	府・東ほか	174	65	87	22
キャンパスヘルス概論	工・荒井	196	98	66	32
エネルギー科学	工・林	99	50	33	16
現代科学と倫理	府・岩崎	99	37	50	12
京都の自然と森林	府・高原ほか	174	65	87	22

◇ 夏期集中開講科目の履修定員

現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・田村	30	10	10	10
感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・桑子	30	10	10	10
発達心理学	医・小川	174	52	35	87
現代社会と映画製作(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・長坂	30	10	10	10
生命科学講話	府・塚本ほか	設けない			
時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む))	医・八木田	30	9	6	15
京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)	府・間藤	30	10	10	10

後期 授業科目の履修定員

科目名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
哲学	工・伊藤	174	87	58	29
宗教と文化	医・田中	99	29	20	50
東西文化交流史	工・オーガスティン	174	87	58	29
ヨーロッパの歴史と文化	府・阿部ほか	174	65	87	22
ラテン語	医・松本	99	29	20	50
西洋文化論	工・山下太	120	60	40	20
日本文学Ⅱ	医・早川	99	29	20	50
文芸創作論	医・藤田	120	36	24	60
映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府・出口	30	11	15	4
京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	299	113	149	37
京都の文学Ⅱ	府・赤瀬	99	37	50	12
京の意匠	工・並木	99	50	33	16
英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	30	10	10	10
京都学・歴史館ゼミ(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機構・藤本ほか	30	10	10	10
科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)	工・林	30	10	10	10
人文地理学Ⅱ	医・春日	174	52	35	87
社会学Ⅱ	府・井口	120	45	60	15
政治学	工・竹本	99	50	33	16
経済学入門	工・人見	99	50	33	16
生活と経済	府・小沢	99	37	50	12
現代社会と心	府・石田	196	74	98	24
環境と法	工・鳥谷部	120	60	40	20
京の産業技術史	工・山田	99	50	33	16
京都の経済	府・川勝	120	45	60	15
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・児玉	30	10	10	10
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・児玉	30	10	10	10
化学概論Ⅱ	工・石川	99	50	33	16
生物学概論Ⅱ	工・疋田	99	50	33	16
地球の科学	工・酒井	174	87	58	29
人と自然と数学β	工・朝田	99	50	33	16
人と自然と物理学	工・萩原ほか	99	50	33	16
意外と知らない植物の世界	機構・松谷ほか	51	17	17	17
科学史	工・大西	99	50	33	16
医学概論(※2回生以上の工繊大・府大生が対象)	医・渡邊ほか	99	59	40	—
環境論	機構・田中	196	55	55	86
京都の農林業	府・寺林ほか	196	74	98	24
製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・石田	30	10	10	10

◇ 冬期集中開講科目の履修定員

アメリカと中国はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機構・脇田	30	10	10	10
---------------------------	-------	----	----	----	----

担当教員欄の「工」、「府」、「医」、「機構」は、科目提供大学を示し、それぞれ京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都三大学教養教育研究・推進機構です。

各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」:京都工芸繊維大学、「府」:京都府立大学、「医」:京都府立医科大学、「機」:京都三大学教養教育研究・推進機構 を示します。

★授業目的区分 (○は該当するもの、◎は特に強調するもの)

A: 人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B: 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C: 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。

【京都学の特徴】

「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、15科目の「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

【リベラルアーツ・ゼミナールの特色】

リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C:日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、1クラス30名を上限に、少人数で実施します。

■人間と文化

《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
哲学	工	伊藤 徹	後	<p>哲学と呼ばれた知の営みがどのようなものであったのか、西洋哲学の歴史を通史的に見ていくことによって、考える。</p> <p>具体的に登場する固有名詞を挙げれば、イオニア自然哲学、ディオニュソス教とピュタゴラス教団、パルメニデス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム、デカルト、カント、ニーチェ、新カント派、ディルタイ、ヴィトゲンシュタイン、オースティンなど。</p>	<p>哲学は、そもそも「知を愛し求める」という人間の基本的な姿勢を意味しています。「愛し求めること」は、答えという終結をもちません。哲学の歴史を振り返ることによって、答えのない問いと、それを問い続けることの重要性を学び、現代に生きる私たち自身の在り方を振り返る機縁としてほしいと思います。</p>	○	○	
比較宗教学	工	長岡 徹郎	前	<p>宗教は人類の歴史において、生活、政治、民族のあり方に至るまであらゆる人間の営みの精神的根幹をなしており、科学万能の現代においてもその死生観や儀礼などの宗教性は人々の日々の暮らしを支えているのみならず、民族間の宗教的対立は絶え間のない国際紛争の温床ともなっている。しかし私たちは宗教をどれほど理解しているだろうか。この講義では、映像や統計など様々な資料を交えながらわかりやすく諸宗教を比較することを通して、宗教についての確かな知識を持つことにより、グローバルな宗教問題に対応する力を養うとともに、宗教理解を深めることを目標とする。</p>	<p>現代において、宗教はどのような存在意義を持ち得るのでしょうか。多くの日本人にとって宗教とは馴染みのないものかもしれませんが、初詣やお盆、クリスマスに至るまで宗教は無意識のうちに我々の日常に溶け込んでいるのです。この授業が皆さんにとって、宗教とどう向き合えばよいか考え直すきっかけになることを願います。</p>	◎	○	
宗教と文化	医	田中 純子	後	<p>14世紀ほぼ60年間続いた動乱の南北朝時代は、社会の各層の人々を否応なく巻き込み、社会や人々に変化をもたらし、多大な影響を及ぼしました。中でも新たに台頭してくる芸能の動きとそれを担う人々、特に名前に「阿弥陀仏」の付く「阿弥」号者の活動は、注目されます。宗教の支配及び加護からぬげだそうとした芸能者は、京都の新たな主人となった足利将軍との関係を深め、更には室町時代の文化創造の一端を担うこととなります。授業では、社会の大変革期である南北朝期と次に来る室町時代の社会変化を検討しながら、芸能の発展及びそれを支えた芸能者の活動について考えます。</p>	<p>中世後期に花開いた室町時代の文化は、その後、更に洗練されて現代へと継承され、日本独自の文化とよばれるようになります。能然り、狂言然り、床の間と床の間飾り然り、喫茶然り。現代社会に息づいている日本の文化・歴史を再認識し、中世の人々の思いに触れて、人々の置かれていた時代を感じてほしいと思います。</p>	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
日本史	工	鬼頭 尚義	前	高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。本講では、教科書に載っている有名な「歴史的事項」を別の側面から迫ることで、新たな見方を提供したいと考えている。もちろん、高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。	歴史＝真実だと思っている人にと、受講してほしいと思います。「別の側面」から眺めることで、新たな「事実」が浮かび上がってくるかもしれませんよ。受講生の積極的な意見、教員をある意味「困らせる」ような意見を待っております。	○		
東西文化交流史	工	オーガスティン・ジョナサン	後	漢王朝とローマ帝国の時代から冷戦後まで、東西の外交関係は、常に複雑で崩れやすいものであった。今日の国際事情に精通するには、中国と欧米の外交ばかりではなく、歴史、芸術、宗教的な基盤の差異を理解する必要がある。この授業では多様な視点から、東西軸の基盤を分析し、相対的な人間学を探究する。	二十一世紀は、商社やマスコミ関係の仕事に就かなくとも、米中欧関係の変化を学んでいく必要があります。世界の食料輸出でもあり、大量の国債を保有している中国と良好な関係を築いていくには、まず東西軸の基盤を見直すことから始めなければなりません。この授業では、東西思想の相違点と共通点を分析しながら、より相対的な歴史観を身につけていただきたい。	○	○	○
アジアの歴史と文化	府	井上 直樹	前	日本からもっとも近い外国が朝鮮半島の韓国・北朝鮮であり、朝鮮半島と日本との交流は古代より行われ、近年でも盛んに行われている。この日本と韓国・朝鮮との交流は、日本の歴史・文化形成とも密接に関連している。それゆえ、この朝鮮・韓国の歴史・文化を知ることが、そののみならず、日本、さらにはそれら諸国を包括した東アジア、世界史を理解する上でも重要である。本講義では韓国・朝鮮の歴史・文化を日本や中国との関係をふまえて概論しながら、韓国・朝鮮の歴史・文化についての理解を深める。	韓国・朝鮮は日本の隣国として日本に大きな影響を与えてきた国・地域で、それは今後も変わらないとおもいます。その過程で、さまざまな問題も起こりましたが、韓国・朝鮮が歩んできた歴史や文化を抜きにして、日本と韓国・朝鮮との交流やそれを前提として形成された日本の歴史・文化を理解することはできません。韓国・朝鮮の文化を学びながら、改めて隣国である韓国・朝鮮との関係や日本の歴史・文化を見つめ直す機会になればと思っています。	○	○	
ヨーロッパの歴史と文化	府	阿部 拓児・渡邊 伸・川分 圭子	後	・古代から近代までの欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなく中近東やアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・文化・社会の諸側面を取り上げる。 ・現代社会の歴史的・文化的基礎を理解することを目標とし、現代の諸問題を多角的に考える力の修得をめざす。 ・高校で世界史Bを受講しなかった学生にも学習しやすい内容・レベルをめざすが、現在の日本人による研究がどの程度進められているかなどについても論及する。	ヨーロッパの歴史と文化は、現代世界を理解する上で不可欠の知識です。また、数十年、百年、数百年といった時間がたつと社会やものの考え方はどのように変わるのかという長い時間の感覚を持つことも、生きていく上でとても大切なこと。今の日本の価値観を絶対のものとして、昔や他の地域の価値観を理解し将来を見越す力を持つためにも、歴史を学びましょう。	◎	○	

《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
ラテン語	医	松本 加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありますが、現在でもa.m.(午前)やp.s.(追伸)といった略語、自動車などの機械類の製品名で目している語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ること、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけではなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学etc.(ちなみにetc.もラテン語です)と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎であるラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
文芸創作論	医	藤田 佳信	後	前半では、近代文芸の成立過程を、代表的な作家と作品に触れ、文芸作業をしながら、考察します。また、後半のメイン・テーマ「聞き書き」では、実践的な方法論を展開します。本講義を通じて、文章を書くのに何が大切なのかを考え、受講生自身の考え・意見・思いなどを、他者に向かって発信する創作態度と技法を身につけます。 最終目標は、受講生自身のオリジナルなエッセイ3編(身辺雑記・紀行文・読書感想文)の創作です。	色々な文芸作品の一節を読み、文芸作業をしながら、<書く制約>を意識した創作態度や創作の技法を身につけます。文芸作業は、いくつか用意しています。前回、受講生のコメントに、「感想」は自分の意見・考えを表現する大切な場だと気づいた、とありました。<文芸に正解がないのが面白い>というのもありました。文章をたくさん読んで、真剣に考え、皆さん自身の意見・考え、あるいは思いを積極的に表現しましょう！			○
美と芸術	工	三木 順子	前	Artという語は、「芸術」とも「美術」とも訳される。このことからわかるように、一般に美と芸術は深い結びつきをもつものとみなされてきた。だが今日、美と芸術は、必ずしも相互に関連するものではなくなっている。この講義では、もはや「美しい」という形容詞では説明できなくなった芸術の諸相を明るみに出すとともに、芸術と乖離した美が、今日、どのような場でどのような意義と課題をもって現象しているのかについて考察する。	私たちは、展覧会やコンサートを自由に選び、好きなようにアートを楽しんでいます。しかし、このような気ままな芸術体験の次元から一歩踏み出し、より根本的に、なぜ人間は美や芸術を必要とするのかに目を向けるとき、芸術は、たんなる趣味の対象ではなく、学問の対象として、新しい姿で立ち現れてくることになるでしょう。			○ ○
日本近代精神史	工	伊藤 徹	前	人間は、世界と自己に関するイメージを組み立て、それに即して生きていく。人間の支えとなるこのイメージは、歴史とともに変動し、ときとして壊滅的な崩壊さえ経験する。明治維新以降近代化の歴史を歩んだ日本人の精神生活のなかに刻まれたそうした変動と崩壊の軌跡を、芸術家や知識人が残した作品やテキストから読み解く。具体的に扱う対象としては、高橋由一、岸田劉生、岡倉天心、浅井忠、岡本太郎、寺山修司などを考えている。	近代化は、人間のあり方を大きく変えたものであり、その変化は現代に生きる私たちの思考や感情にまで繋がっている。夏目漱石は、「片付かない」という言葉でこうした運動を性格づけたが、「終わりのない」近代を考えることは、私たち自身の生を顧みることでもある。本講義では、美術作品や文学などを通して、人間存在の基盤の反省に向かう生きた思想の息遣いを感じ取ってもらいたい。			○ ○
フランス語圏の文化とジャポニスム(2回生以上)	工	吉川 順子	前(午前)	日本とヨーロッパの交流は宣教師が渡来した16世紀に始まり、鎖国を経て、本格的には19世紀半ばに日本が開国したことによって急速に発展した。とりわけフランスを中心に欧米諸国で「ジャポニスム」という日本文化の影響を受けた芸術運動が巻き起こり、美術・音楽・文学など様々な分野に広がった。本講義ではこのジャポニスムの多彩な事例を具体的に分析しながら学ぶ。また、その背景にあったフランス語圏の文化や言語に関する知識も身につけ、日本の文化の特徴や価値も振り返る。 ※2回生以上を対象	ジャポニスムを学びながら、現代の私たちにも通じる、自国の伝統と異文化摂取の間に生まれる新たな文化の豊かさや、異文化交流のあり方、異文化接触にまつわる諸問題についても考察を深めましょう。また、個々の関心に基づき、日本の様々な文化が世界でどのように知られてきたか、今どのように理解されているのかも調べてみましょう。			○ ○
映画で学ぶ英語と文化(3回生以上)	府	出口 菜摘	後(午前)	この授業の目標は、映画を通じてアメリカの文化と社会を学ぶこと、英語のリスニング・スピーキング能力を向上させることである。マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』やルイザ・メイ・オルコット『若草物語』、フランク・ボーム『オズの魔法使い』、ハーパー・リー『アラバマ物語』を題材に、南北戦争や感謝祭、人種問題などアメリカの歴史や重要事項を学ぶ。また、映画の一場面を演じることで、英語への理解と表現能力を高める。 ※3回生以上を対象	名作映画にアメリカはどのように描かれているか、一緒に考えましょう。セリフや歌にこめられた意味は何か。実際に発音して分析し、議論しましょう。面白さは細部に宿る！			◎
映画で学ぶドイツ語と文化(3回生以上)	府	青地 伯水	前(午前)	授業の9回は、映画『点子ちゃんとアントン』を見ながら、そのシナリオを読みませす。詳細にドイツ語を見ていくことによって、読解力と聴解力を向上させます。 またそれ以外の6回は、『ブリキの太鼓』、『夜と霧』、『愛を読む人』、『スペシャリスト』、『カスパー・ハウザーの謎』、『バーダー・マインホフ 理想の果てに』といった映画の一部を見て、第二次世界大戦からのちの20世紀ドイツの歴史における重要な局面について考え、討論をします。※3回生以上を対象	すでにドイツ語の基礎を学んだ人が、さらにステップアップするための授業です。ドイツ映画になじみのない人も、この機会にぜひその面白さを発見してください。映画のドイツ語を聴いて、シナリオを読んで、使える表現を身につけましょう。また、受講者同士の議論を通じて現代世界を理解する糸口が見つかるでしょう。			◎

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	菱田 哲郎 ほか	前	<p>原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。</p> <p>取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかにして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものか、具体的な事例をもとに論じる。</p> <p>3人の教員が歴史学（文献史学）や考古学の立場からリレー式で担当する。</p>	<p>この授業では、中世までの京都に関する諸事家のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。</p> <p>それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいか、一人一人が考えてほしいと思います。</p>	○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林 啓治 ほか	後	<p>近世以降、現代に至るまでの京都について、歴史的・地理的観点から概観する。江戸幕府の成立以降、京都は政治的中心ではなくなるが、国家権力や権威から切り離された都市になったわけではない。明治以降は、天皇制国家の権威の源泉として再建されていく。</p> <p>それぞれの時代が都市京都をどのように特徴づけたのか、逆に言うと、都市京都はどのような役割をになったのかについて、具体的な事例をもとに論じる。</p> <p>近代以降は世界史的な観点から京都を位置づけることも重視する。</p>	<p>近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついていたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。</p>	○	○	
京都の文学Ⅰ	府	赤瀬 信吾	前	<p>文化は、ことばなくして形成されず、ことばなくして歴史を語ることは不可能である。古典的文化の中核をなすのは古典文学であり、京都文化の基盤となったのは、わが国の古典文学を代表する『古今和歌集』『新古今和歌集』などの和歌文学、また和歌文学をひとつの基盤として展開していった『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』といった物語文学などであった。こうした王朝の和歌や物語を主に取りあげ、作品を読みながら京都文化学の研究の方法を具体的に紹介する。作品の心理描写に分け入るための精密な読解の方法、作品の背景となっている歴史的な事象の把握、歌ことばや歌枕など表現としてパターン化しがちなことがらについての理解といった点が、講義の中心となる。京都文化の基盤となった古典を理解するための基本を、この講義では論じることとする。</p>	<p>授業にはできる限り出席してください。</p> <p>授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。</p>	○	○	
京都の文学Ⅱ	府	赤瀬 信吾	後	<p>文化は、ことばなくして形成されず、ことばなくして歴史を語ることは不可能である。古典的文化の中核をなすのは古典文学であり、京都文化の基盤となったのは、わが国の古典文学を代表する『古今和歌集』『新古今和歌集』などの和歌文学、また和歌文学をひとつの基盤として展開していった『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』といった物語文学などであり、これらの文学作品は京都に生まれ、京都文化の根幹となった。こうした王朝の和歌や物語を主に取りあげ、作品を読みながら京都文化学の研究の方法を具体的に紹介する。作品に応じて、文献学的な異本研究や、時代ごとにどのように理解され享受されていったか、民俗芸能のように文献とは異なるジャンルでは、どのように享受され理解されていったかという、享受史的研究についても言及する。古典が古典として成立する上で重要な働きをする「異本」というものの生成と展開とを、この講義では論じることとする。</p>	<p>授業にはできる限り出席してください。</p> <p>授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。</p>	○	○	
京の意匠	工	並木 誠士	後	<p>明治維新以降、京都の美術工芸界、伝統産業界は、さまざまなかたちで近代化に直面する。そして、美術学校の設置、博覧会の開催、図案教育などにより京都は近代化に対応しようとする。近代の京都を、美術工芸や意匠の側面からできるだけ事例、作例に即して考えてみたい。</p>	<p>自分たちが学びの場として選んだ京都というまちとそのさまざまな活動についての知識を身につけてほしい。京都というと、古いお寺や神社のイメージが強いが、明治時代以降の近代にも多くの魅力的な「意匠」が生み出されているので、そのような近代の京都に触れる機会になればと思う。</p>	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
英語で京都 (3回生以上)	機	金澤 哲	後	概要:学問的な視点から「京都」について考え、英語で発信しましょう。今年はパンフレットを作ります。 目標: (1)「京都」とは何か、学問的に考えてみる。 (2) 他者の目から見た京都について意識する。 (3) 聞き手を意識した英語表現を使えるようになる。 ※3回生以上を対象	「京都」とはなにか、観光イメージのレベルを超えて、一緒に考えてみましょう。外国からの視点は大きな手がかりになるはず。また、すでに学んできた専門教育の考え方も活用してください。自分の考える「京都」について、英語で発信してみませんか。		◎	○
京都学・ 歴彩館ゼミ (リベラルアーツ・ ゼミナール) (2回生以上)	機	藤本 仁文 ほか	後 (午前)	リレー講義・ゼミにより、京都学・歴彩館所蔵の古典籍・歴史史料・行政文書を使用しながら、その扱い方や活用法について学ぶ。 目標 京都学・歴彩館所蔵の古典籍・史料と、講師の専門的知識・経験を活かして、少人数でのアクティブラーニングを行う。受講者が多様な資料とその活用法について知り、実見・解読することによって、資料価値を実感し、学びの地平を広げることを目指す。 ※2回生以上を対象	自分で古典籍・史料を使用しながら、卒業論文を作成していく基礎的能力を身につけます。貴重な古典籍や史料に触れることで、これまで情報として覚えてきた人物・場所・事件などを、生き生きとしたリアルなものとして見聞きし感じて下さい。		○	○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代イスラーム 世界の 文化と社会 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ ゼミナールⅥ)	機	田村 うらら	集中・ 夏	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのイスラームと直接接する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11以降の偏向した欧米メディアによる情報も加わり、イスラームに対する誤解は強い。 本講義では、ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義とディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。		◎	○
感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ ゼミナールⅥ)	機	桑子 敏雄	集中・ 夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。		○	○
科学と思想 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (旧科学と思想)	工	林 哲介	後	西欧古代以来の歴史において、学問・科学の誕生と発展は、哲学・思想の歩みと深く関わっている。哲学・思想の展開が学問や科学を生み、また学問・科学の発展が哲学・思想の新たな展開をもたらす。そして言うまでもなく、両者は産業・経済・社会の動態と密接に関わっている。この授業では古代ギリシャ以来の西欧における哲学・思想と学術の歴史から、代表的な事象を取り上げながら、科学・思想と社会の変遷の相互作用を検討する。そして、日本の近代化や日本人の意識を比較して分析し、現代社会の課題を考察する。	ここで「科学」と呼んでいるのは自然科学だけを指しているわけではありません。学問の発展を中心にして歴史を科学的に分析します。学問・思想の歴史を概観すると現代社会の到達点と課題の理解が深まり、そして自己のアイデンティティ（思想）の形成につながります。各回のテーマ・課題ごとに用意された資料を参考に、レポートを分担し発表と意見交換を行います。なかなか楽しいゼミナールです。		○	◎
京都学・ 歴彩館ゼミ (リベラルアーツ・ ゼミナール) (2回生以上) (再掲)	機	藤本 仁文 ほか	後 (午前)	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「人間と文化」の「京都学」を参照のこと。			○	○

■人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人文地理学Ⅰ	医	阿部 美香・古関 大樹	前	地理学は、地表面上で生起する諸事象を研究対象とする学問である。地理学の中でも特に、人文・社会現象を直接の対象とするものを人文地理学という。人文地理学の中には、都市地理学・農村地理学・人口地理学・社会地理学・経済地理学・文化地理学・歴史地理学など、様々な分野が存在する。本授業では、人文地理学における各分野に関して、その概要と研究例を紹介する。また、風景・景観・場所・空間・立地・風土・環境・地誌・地図等、人文地理学における基礎概念を解説する。各回の講義の中で、受講者が地理学的な思考や手法とはどのようなものが、ということへの理解を深め、社会で起こる様々な事象への見方を広げることを目的とする。	地理学と聞いて、皆さんは何を想像するでしょうか。色々な場所の自然条件を思う人も多いでしょう。でも地理学にはもっと沢山の分野があります。人文地理学が対象とする事柄に触れ、地理学はこんなにも幅広い学問なのかと驚く人もいるかもしれませんが。講義で扱う議論から、自身の視野をまた一つ広げてもらいたいと願います。	○	○	
人文地理学Ⅱ	医	春日 あゆか	後	この授業では、人文科学の基本的な概念を毎回取り上げ、それについて理解を深めると同時に、それらに関する人文地理学の研究にどのようなものがあるかを理解する。人文科学では、様々な概念が用いられて研究が行われている。一例をあげれば、この授業では規律権力、ネオコロニアリズム、ネイション、ジェンダーなどの概念に触れるが、これらの概念は私たちがこれまで当たり前だと考えてきた世界の在り方を疑い、社会の矛盾を直視すること、別の視点で世界をみることを促す。そして、これらの概念を具体的に示したのものとして人文地理学における事例研究や地理・空間に焦点をあてた歴史研究を取りあげる。	人文地理学Ⅰと同様、この授業で扱う研究は高校までで学んできた地理学とは違う学問に思えるでしょう。また、前期の人文地理学Ⅰが日本の事例を中心とするのに対し、この授業では英語圏で出版された歴史地理学の日本語訳テキストを用いるので、事例紹介も英語圏に関わるものが多くなります。	○	○	
社会学Ⅰ	府	井口 暁	前	本授業では、社会学の古典的な議論を整理しながら、集合行動、支配、アイデンティティ、幸福感、役割、逸脱、マイノリティ、親密性などの身近な問題に社会学の観点から切り込む。 本授業では、社会学を単なる知識体系として捉えるのではなく、私たちの豊かな社会生活を可能にする「技法」として捉えながら検討する。日常生活で直面するトラブルや違和感、疑問の背景を探り、私達にとっての「当たり前」や「常識」をも批判的に捉え返しながらかつて対処策・解決策を構想する「技法」として、社会学がどう役立つのかについて考察を深めたい。 適宜、映像鑑賞やグループ・ディスカッションなどの「参加型学習」を交えながら授業を進める。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろん、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○
社会学Ⅱ	府	井口 暁	後	本講義は前期に開講される「社会学Ⅰ」に引き続くものなので、「社会学Ⅰ」を受講していることが望ましいが、本講義を単独で履修することも可能である。 「社会学Ⅰ」ではどちらかといえば身の回りのミクロな社会生活を捉え直す考察を深めるが、本講義「社会学Ⅱ」では、現代社会論をテーマとしながら、よりマクロな視点から現代社会のあり様を捉え直すことを目指す。 私たちが生きるこの時代(近代あるいは現代)にはどのような特徴と問題があり、どうすれば解決できるのかということについて、「親密圏」と「公共圏」とを区別しながら考察を深める。 適宜、映像鑑賞やグループ・ディスカッションなどの「参加型学習」を交えながら授業を進める。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろん、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○
政治学	工	竹本 知行	後	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り、「政治」なるものは消えることはない。では、我々が付き合わせるを得ない「政治」とはどのようなものなのか、そして、我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。 本講義では、テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ、適宜、指定した参考文献なども用いて、先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。	「人間は政治的動物である」(アリストテレス)とは、しばしば引用される言葉であるが、彼の時代から2500年を経た今日でも、人間は協調と共同と競争に生きる「政治的動物」であることをやめていない。 講義では様々な問いを投げかけていきたい。それについて考えることを通じて、人類史を貫く「政治的」営みに接近してほしい。	○		◎

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
国際政治	府	依田 博	前	<p>現代国際政治史上の主要な武力紛争を国際政治研究でよく知られている5つの理論を用いてどこまで説明できるのかを検討する。太平洋戦争も日中戦争も、日本の対外政策の失敗であった。ナチドイツによるヨーロッパ支配の試みも、失敗であった。その失敗の理由の一つは、誤った世界認識にあり、その誤った世界認識をもたらしたのは、理論の誤用にある。授業では、現代国際政治での主要な対立をできるだけ正確に理解することを目指す。キーワードは、平和構築・平和維持、グローバルイゼーション、主権国家、国際機関、ODA、戦争（紛争）である。</p> <p>エッセーライティングに毎回取り組む。その目的は、与えられたテーマに関して短時間で文章を的確にまとめることにある。それは社会人として不可欠な資質である。</p>	<p>毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。</p>	◎	○	○
経済学入門	工	人見 光太郎	後	<p>経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように動くかを分析する学問です。</p> <p>この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。</p>	<p>経済に関した問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実目に目を向けるようになって下さい。</p>	○		

《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生活と経済	府	小沢 修司	後	<p>経済（＝生活の営み）の仕組みを知ることは、私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常の生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なものの方、考え方を平易に解説しながら、経済学の人間の再生を目指す。</p>	<p>大学での学習では2つのことが大切です。1つは「常識を疑う」こと。もう1つは「何故？」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたいと思っています。</p> <p>考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。</p>	○		○
心理学	工	大谷 芳夫	前	<p>本講義で取り上げる主な内容は、心理学のうち実験心理学と呼ばれる分野に属するものである。実験心理学は、人間の心の働きを科学的に解明し、その法則を明らかにしようとする学問である。実験心理学が対象とする範囲は多岐にわたっており、医学、生理学、情報科学など様々な学問分野とも密接に関係している。</p> <p>本講義では、心の働きの基本的な側面である、視覚（ものを見る働き）・記憶（ものごとを覚える働き）・学習（環境に合わせて行動を変化させる働き）の機能を取り上げ、基礎的な現象や知識を紹介するとともに、実験心理学の方法論や考え方について解説する。</p> <p>また、これらの心理学的機能を支える、眼や脳の生理学的機構についても紹介する。</p>	<p>「「こころ」とはなにか」という問いは、人間にとって根源的な問題です。実験心理学は、この疑問に科学的な方法で答えを得ようとして取り組んできた学問です。皆さん一人一人が持っている「こころ」について、現在の科学はどう答えるのか・答えられないのかについて知り、自分自身を見つめ直すきっかけとなればと思っています。</p>	◎		
発達心理学	医	小川 恭子	集中・夏	<p>人の発達とは子どもから大人になる時期だけのことではなく、生涯にわたって発達するものと考えられている。短い期間に大きな成長がみられる乳幼児期、大人になる心理的・社会的変化を感じる青年期、大人になってからの成人・老年期等、それぞれの時期について研究が進められている。</p> <p>このような人間の生涯にわたる発達について、心理学的側面を中心に学ぶことを目標とする。発達心理学の諸理論を概観し、人生の各時期の発達課題や起こり得る問題、環境との相互作用等について学び、理解を深める。</p>	<p>心理学では科学的な手法を用いて現象を明らかにしようとしています。しかし、人のこころについて100%正解といえることはなかなかありません。そんな学問に取り組むのは難しく興味深いことです。自分自身で考えようとするのがその後に生きてくると思います。</p>	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代社会と心	府	石田 正浩	後	<p>組織と関わらずいられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織はその構成員から組織目標を実現するための貢献を期待するが、構成員は収入を得ること、自己実現の機会を与えられることなどさまざまな期待をもって組織と関わり、お互いの期待が一致することは難しい。</p> <p>本講義では、組織心理学・社会心理学が蓄積してきた、モチベーション・コミットメント・リーダーシップ・ストレス等についての知見を知ることを通して、現代の組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア（職業人生）を考えていく心理学的な視点を学ぶ。</p>	自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。授業内容はそこでの自らの体験と直接関連します。授業内容を自分にあてはめてみて理解を深め、体感するようにしてください。	○		○
現代社会とジェンダー	府	小沢 修司 ほか	前	<p>男女共同参画社会の実現に向けて、ジェンダーをめぐる人権問題について自己の問題でもあるとして積極的に関心を持ち続けることができるようにしたい。</p> <p>内容構成の柱は、大きく3つに分けられる。一つは、人類の歴史をジェンダーの視点から捉え直す。二つ目は、ジェンダーをめぐる制度・政策について、国内外の条約や法律、社会政策等からその到達点や課題を考察する。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などがジェンダー・イデオロギーを生産・再生産するという問題等を検討する。</p> <p>授業の方法としては、主には講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「キャッチボール」を実現したい。</p>	ジェンダーという言葉を知ったことはありませんよね？でも、もしかして女性差別の問題であると理解していませんか？もちろん、その側面は重要な要素ですが、それだけではありません。え、こんなところにもジェンダーが！さまざまな発見があり、授業終了時にはあなたの「当たり前」の意識は大きく変わっていることでしょう。		◎	○
人権教育	工	杉本 弘幸	前	<p>近代日本社会の歴史を様々なマイノリティとの関係から考察する。日本の近代化過程における社会的マイノリティに対する差別の実態、マイノリティの差別撤廃運動参加など、できるだけ具体的事例を取り上げながら検討していく。特に、差別撤廃政策のように見えて、新たな抑圧を生んだ施策に注意を払って講義をすすめていきたい。また、マイノリティの側が、そうした施策に対してどのような態度を示したのかという問題も視野に入れる。なお大学の所在する京都の事例を中心にできるだけ具体的に文献・図像・映像史料を駆使した講義やフィールドワークをすすめていく。</p>	みなさんが、これまで受けてきた「人権教育」は差別はいけない・よくないの一点張りだったことがおおいでしょう。いわば、「うさんくさい」・「あやしい」ものだったのではないのでしょうか？本講義では最新の人文・社会科学の研究成果をもとに、大学における「学問」としての人権問題を歴史的なアプローチを中心に学んでいきます。「人権教育」というと、これまで「うさんくさい」・「あやしい」と考えてきたあなたを歓迎します。	○		○
現代教育論	工	塩屋 葉子	前	<p>我が国の近代公教育は、明治維新の「学制」発布に始まる。この時、我が国は歴史上類を見ない程の大きな教育改革を果たすのだが、同時に、学歴社会や受験競争など、解決を急務とする多くの教育問題の発端もここに求められることができる。「学制」発布以降、幾度かの大きな教育改革に迫られ今日に至るのだが、本講義では、特に現代の教育改革に焦点を当て、その実態を明らかにするとともに、今後の課題を考察し、我が国の教育の在り方を展望する。</p>	みなさんは今、学校教育の最終段階で学んでいます。この時点において、自分がこれまで受けてきた学校教育とはどのようなものであったのかを振り返り、そして、これから受けるであろう教育について展望することは、発展的な自己形成を図っていく上で有意義なことだと思います。教育について、一緒に考察していきましょう。		○	○
食環境をめぐる国際社会と日本	府	宗田 好史 ほか	前	<p>食環境をめぐる国際社会と日本について、本学教員と食糧に関わる専門家によるオムニバス形式で講義を行う。グローバルな視点で食糧の状況を俯瞰し、国際社会とわが国における食糧をめぐる課題について学び、課題解決のための方策について討議する。</p>	食糧と食環境のあり方は、人間が生きていく上で最も重要なことです。現在の食環境は、環太平洋パートナーシップ協定の合意や消費税問題など、社会と密接な関係性を有しています。本授業において、現在の食環境について学び、個人の食のあり方から、地域、国、及び国際社会の食糧環境がより良くなるための方策について意見交換し、望ましい食の行動の実践をめざします。			○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
環境と法	工	鳥谷部 壤	後	「21世紀は環境の世紀」といわれています。今日、環境の保護・保全のためのさまざまな取り組みがなされています。それでも、未解決の環境問題が山積しています。現代社会に生じる環境問題を克服し、私たちの社会を未来に向かって持続可能なものにしていくうえで、法の果たす役割は決して小さくありません。この講義では、身近な環境問題から地球規模に至る環境問題まで、さまざまな事例を取り上げ、そしてそれらを法学の視点から分析する素養を養うことを目的とします。	現代社会において人々は「環境」問題と密接なかかわり合いを保ちつつ生活をしています。環境の悪化は様々な場面で社会にひずみをもたらしています。こうした環境の悪化を食い止める一群の環境関連諸法は、「文明の滅亡を遅らせるための法律」ということができます。環境破壊による文明の滅亡を食い止めるための知恵を、この授業を通して学んでみませんか。	◎	○	○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
近代京都と三大学	機	宗田 好史 ほか	前	京都と深い関わりをもつ歴史ある三つの大学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した背景、京都の近代を学びます。そして、近代化過程で三大学が果たした役割を知ります。三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、産業が成長・発展してきました。この過程を学ぶことは、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認することです。そこから現代社会での大学の役割を考え、学生さん、教員それぞれが、京都の地域社会と関わっていく意味を考えていきます。三大学は、京都の産業・経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わり、京都の企業や施設、社会、行政機関を発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の町の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。 三つの大学から講師の先生方が来られ、テーマに沿って順番に講義していきます。	京都の伝統ある三大学で学ぶ皆さんが、母校に誇りを持つと同時に、各地で活躍する数多くの先輩諸氏を知り、その功績を知るとともに、皆さん自身も先輩に続き、地域社会に貢献しようという意欲を感じてもらえる講義にしたいと思います。			○
京の産業技術史	工	山田 由希代	後	京都にとって大きな転換期となった「近代」に注目し、染織、陶芸、絵画などの「美術・工芸」がどのような変遷をたげて現代にいたっているのかについて、産業との関わりをふまえて講義する。	日本の文化や生活に深くかかわってきた美術・工芸は、伝統産業として長い歴史ある京都の独特な文化を支えてきたといえます。いまも私たちの暮らしの様々な場面に見ることのできる伝統産業を守り続けた人々の取り組みをふりかえることは、現代の産業振興に役立つ要素の発見にもつながると思われます。			○
現代京都論	府	大島 祥子	前	講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷（まちづくり史）を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で、後半では、テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPOや民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。	京都の歴史を踏まえ、行政、市民活動、大学、企業など多様なセクターによる京都のまちづくりやその背景にあるものを学びます。今まさに京都で起こっている様々なテーマを取り上げ、解説します。学び、暮らす京都をより深く理解し、京都により関心を持って欲しいと思います。			○
医史学	医	八木 聖弥	前	京都における医療の歴史を系統的に講義する。内容は医学理論や技術だけでなく、制度や施設、思想的背景など周辺領域も含む。われわれが疾病に対してどのように対処してきたかをたどることによって、文化としての医の本質を考える。	疾病との闘いは、人類にとって永遠のテーマです。最先端の医療も、過去の積み重ねのうえに立ちます。医療の歴史から未来への指針を学びます。	◎	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の経済	府	川勝 健志 ほか	後	京都の経済について、もっともよく知るの は、京都で暮らす人たちの生活や企業の経済 活動を支えている地域金融機関だというこ とを、皆さんはご存知でしょうか。本講義では、 「ながーい、おつきあい。」でお馴染みの京都 銀行から毎回ゲストスピーカーをお招きして、 京都の経済に関わる幅広いテーマと同行の 様々な取組についてお話し頂きます。地域金 融機関が京都の経済、さらには地域の発展に 果たしている役割について学ぶことが、本講 義の目的です。	皆さんは京都の経済といえば、ど のようなイメージをお持ちでしょう か。京都の中心部だけを見ると、観 光のイメージが強いと思いますが、 地域金融機関の役割を通して、京 都府全域やその周辺地域、さらにはグ ローバル経済との関係にまで視野を 広げると、きっと新しい発見や驚き に出会えることでしょう。			○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代社会に 学ぶ問う力・ 書く力 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ ゼミナールⅠ)	機	児玉 英明	前・ 後	「高校での学び」から「大学での学び」へ転 換するにあたって、不安を感じている1回生 も多いだろう。本ゼミナールは、そのような 1回生を対象として、「論文とはどのような文 章なのか」といった初歩から始める。 大学での学びは、「聴く」ことや「読む」こ とといった受動的な学びに、「問う」ことや「書 く」ことといった能動的な学びが伴って、初 めて完結する。本ゼミナールでは、「考える という行為」と「書くという行為」の相関を論 じた基礎的な文献を教科書にして、大学で学 ぶためのリテラシー能力の向上に努める。テ キストとして苅谷剛彦氏が東京大学でのレ ポート作成の方法をまとめた『知的複眼思考 法』を精読する。 『「問い」を意識しながら読み、『問い』を意 識しながら書く』という、すべての科目に共 通する初年次教養教育を、少人数のゼミナ ール形式で展開する。	大学での学びは、自ら「問い」を 立てることです。本講義では、自ら 立てた問いについてレポートを作成 し発表するという、書くという行為 に重点を置いたアクティブ・ラーニ ングを展開します。 パソコンや図書館の使い方も含め、 1回生を対象に初歩からレクチャーし ます。最初は小学生レベルの反論文 の書き方から始めますが、最終的 には東京大学など多くの大学で広く使 われているロジカルシンキングの教 科書を読みこなすレベルを目指しま す。 授業の後半では、「なぜ、大統領選 挙でトランプ氏に支持が集まるのか」 という現代社会の問いに向き合いま す。テキストとして池上彰・増田ユ リヤ『徹底解説! アメリカ』ポブラ 新書、2016年を輪読します。			○ ◎
社会科学の 学び方 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ ゼミナールⅡ)	機	児玉 英明	後	日々の新聞で取り上げられるニュースの中 で、何か気になっているテーマがあるだろ うか。本ゼミナールは、文系であろうと理系 であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持 っていて、教員や仲間と議論する力を身につ けたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが 「人生をいかに生きるべきか」を問うことで あり、その生き方を問う問いが「自分がいま 生きている社会をどう見るか」という社会認 識を問う問いと不可分に結びついていること である。 本ゼミナールでは、古典として定評のある 文献（吉野源三郎『君たちはどう生きるか』 岩波文庫、1937年）を、現代にひきつけて精 読する。そして、社会科学のセンスを磨くた めに3本の映画（『母べえ』『夕凧の街桜の国』 『母と暮らせば』）を鑑賞し、多様な考えを持 った受講生と語り合う。	大学に入学時、教授に次のように 言われました。メートル単位で本を 読め！田舎者の私は「メートル単位」 という発想に、なぜか興奮を覚えま した。1回生は、学問へのいざない として、新書本をよく読みます。新書 本などは、1冊、2冊買って読んで いるようでは不十分で、やはり「棚 と買って読む」くらいの気迫がなけ れば、学問の本質には近づけないで しょう。 本講義では、教養教育の古典や映 画を教材に使いながら、「教養教育の 原理像と思想性」を学びます。		◎	○
現代社会と 映画製作 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (リベラルアーツ・ ゼミナールⅣ)	機	長坂 勉	集 中・ 夏	本講義は、商社で28年以上にわたり映 画製作ビジネスに携わった一社会人による実 践的社會人論、体験的映画製作論である。学 生時代に感銘を受けた政治思想家・丸山眞 男の著作と山田洋次監督の作品から深く学ん だ内容を披露しつつ、学生時代にこそ思索す べき課題についての問題提起を、まず行う。 更に、実社会に出て真摯に考究した社会人 としての生き方や規範意識の問題など多面的 で実践的なテーマを、両氏の思想を参照しつ つ論考する。そして講義後半では、映画「学校」 以来、23年間で14本の山田作品に出資参加 した経験を基に、同氏の人生の軌跡を辿る「山 田洋次論」を、次いで、映画を通じて現代社 会を冷徹に凝視し続ける同監督の問題意識を 「作品論」として、論述する。	「学生時代だからこそ学ぶべきこ と」、「学生時代にしか学べないこと」、 この二つの問いに何らかのヒントを 受講者に与えることができたなら、そ して暑い夏の京都で一服の「清涼剤」 として講義内容が喜ばれば、人生 の先輩たる一社会人が行う本講座の 意義は、ほぼ達せられたに等しい。		◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
アメリカと中国はいま (リベラルアーツ・セミナール) (旧リベラルアーツ・セミナールV)	機	脇田 哲志	集中・冬	<p>21世紀は「多極化」の時代となっていくのだろうか？あるいは、アメリカと中国の「G2」の時代となるのだろうか？格差、環境、民族問題など困難な問題を抱えながら経済・軍事両面で急膨張する中国と、覇権の衰退と社会の分裂に悩む超大国アメリカ。GDPで1位と2位を占める2つの大国は、太平洋を挟んで警戒と反発を繰り返しながら経済の相互依存をますます深めつつある。こうしたなか「アメリカ第一主義」を掲げるトランプ新政権の登場は、米中関係のみならず、アジア太平洋地域の情勢を、想定を超える不確実なものに導くかもしれない。</p> <p>この講義では、まずアメリカと中国がそれぞれ抱える国内的な諸課題をしっかりと認識した上で、それらの要素が対外政策にどう反映され、米中関係や東アジア、そして国際情勢全般に、どのようなインパクトを与えていくかについて、最新の国際情勢を追いながら理解を深めていく。</p>	<p>担当教官は、NHKの中国総局長とアメリカ総局長を経験した国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、世界の動きをどう把握し理解すればいいかという感覚を身につけられるよう、みなさんと論議を重ねながら考えていきたいと思ひます。</p>	◎	○	
経営哲学 (リベラルアーツ・セミナール) (旧リベラルアーツ・セミナールIX) (2回生以上)	機	児玉 英明	前	<p>前半10回は土屋守章（東京大学名誉教授）による標準的テキスト『現代経営学入門』を精読します。『現代経営学入門』では経営戦略、経営組織、経営学説の基礎を学習します。併行して、ひとつのテーマが完結すること、公務員試験に出題された過去問の演習を行います。『現代経営学入門』を丁寧に輪読することで経営学的思考とは何かを学び（Input）、公務員試験の過去問を活用することで知識の定着をはかります（Output）。</p> <p>マネジメントとは、問題発見・問題解決の積み重ねです。本講義では、具体的なケーススタディでビジネスの場面を想定し、学生に問題発見・問題解決の思考を体験させることが目的です。後半5回は沼上幹（一橋大学教授）『ゼロからの経営戦略』に掲載されている11のケーススタディ（ヤマト運輸、すかいらーく、ハイデイ日高、パーク24、富士フィルムなど）から、各自関心のあるケースを選び、学生による発表を行います。</p> <p>※2回生以上を対象</p>	<p>少人数のゼミナール授業のため、テキストの報告を受講生が担当します。政治経済の勉強を全くしてこなかった理系学生も歓迎します。就職活動を控えた3回生、4回生の受講も歓迎します。</p> <p>公務員試験対策を考えている学生は『現代経営学入門』をベースメーカーにして、その都度、学習した内容を公務員試験の問題集を使って復習してください。</p> <p>担当教員は「宅急便の経営学」を研究しています。誰もが知っている宅急便ですが、スタートした1976年初日の取扱量は、たったの11個だったそうです。なぜ、宅急便は、これほどまでに成長したのでしょうか？後半はクロネコヤマトという身近な事例を通じて、経営学的思考を紹介いたします。また、宅急便を開発した小倉昌男の経営哲学を紹介いたします。</p>	◎	○	

■人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
物理学 I	府	春山 洋一	前	<p>この講義では物理的な見方や考え方を養うことを目的とする。物理公式や数式の扱いには重点を置いていない、自然科学の基本となる単位や次元から始めて、次元解析の話題を紹介する。次に、自然科学の歴史から古典力学の成立までを主なテーマに講義する。話題とするのは、初期の哲学者、ガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの考え方とその業績である。</p> <p>古典力学の重要な到達点としての運動方程式の意味や扱いについて述べ、まとめとして物理で重要な保存則の意味と扱いについて述べる。</p>	<p>科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身はブラックボックスとなりつつある。これが科学の時代における「非合理性」の背景になっているように思える。</p> <p>分からないなりににも合理的に物事を考えるというスタイルを身につけることが大切である。</p>	○		
化学概論 I	工	三木 定雄	前	<p>高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれもが、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たるうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、“物質のなりたち”と“物質の変化”という化学の大きな輪郭を勉強したいと思ひます。</p>	<p>わが国では、“きたるべき受験への対策”に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思ひます。しかし、化学の面白味をふつつつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思ひます。</p>	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
化学概論Ⅱ	工	石川 洋一	後	暗記するのではなく、大学生として感覚的に身につけておいて欲しい(物理)化学的な考え方が幾つかある。それは、「熱力学」と「量子化学」と、それらを基にした「化学反応論」である。しかし、高校のときに学んだ化学とこれらの考え方の間には、比較的大きなギャップがあるように思われる。このギャップを少しでも埋めるために、「サビと老化」、「クーラーの効率」、「視覚と色」といった身近な化学現象を題材として、上記三つの考え方の概要を論述したい。	化合物名も化学反応式も覚えなければいけない。その複雑多岐性ゆえに化学は暗記に頼らなければいけなさそうに見える。しかし、物質を構成する粒子は“原子核”と“電子”であり、化学的性質は電子によって支配されているといっても過言ではない。この電子を理解することで、暗記に頼らず演繹的に化学を理解する筋道を示す。	○		
生物学概論Ⅰ	工	足田 努	前	自然科学の中で生物学が対象とする生物は、物理学や化学が対象とする物質とは異なっている。それはゆっくりと進化し、分化して多様化してきた。生物というものがどのようなものを、性、寿命などの生物の特徴とその構造について解説する。そして、生物がどのように認識されてきたかを、博物学史から概観し、種とは何か、個体とは何かについても考察する。	生物学が対象とする生物はヒトを含んでおり、生物とは何かという問いは、ヒトは何かという問いにつながる。だから生物について知ることは、我々自身が何かかという問いに答えることになる。現代の生物学がヒトを含む生物をどのようなものと考えているかを学んでみよう。	○		
生物学概論Ⅱ	工	足田 努	後	地球上には多様な生物がすんでおり、それらはただ一つの生物に由来すると考えられている。それらの生物がどのように分化してきたかをたどり、多様な動物群、なかでも、我々を含む脊椎動物の起源とその多様な動物群の特徴と進化について概観する。多様性を理解するには分類学と系統学が必要となるので、これについても説明する。	我々の周りにいる多くの生物にはどのような関係があり、どのように進化してきたかを見てみよう。我々が属する脊椎動物は海で生まれ、その一部が陸に進出してきたもので、ヒトも祖先となる魚類、両生類、爬虫類の特徴を残しています。	○		
生命科学講話	府	塚本 康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際に行ってきた研究成果を実感し、生命科学の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者(教員)から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持って貰えたらと願う。	○	○	
地球の科学	工	酒井 敏	後	地球は太陽系の中で唯一、液体の水を持つ惑星として生まれ、進化を遂げて来た。水を持つことで、地球は他の天体と大きく異なる運命をたどることになった。 この講義ではまず、宇宙誕生から現在にいたるまでの歴史を振り返り、「地球誕生の物語」を解説する。後半は、「現在の地球環境」を維持する大まかなメカニズムについて解説する。 日常生活とは全く違う視点から、「ピュアな気持ちで地球を考えることで、「我々の地球」に対する認識は大きく変わるはずである。	世の中、真面目だけでは通用しない。高校までは、真面目に100点を目指せばよかった。しかし、状況が変われば、その点数そのものが無意味になる可能性もある。それが自然界の掟であり、人間社会もその中にある。地球と地球生命の歴史は、その事実を雄弁に物語る。これを知ること、子供から大人への第一歩である。	○		○

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学 α	工	峯 拓矢	前	高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として19世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が4000年以上遡るものもあります。本授業ではいくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるか、それらが現代社会でどのような役割を果たしているかを理解していきます。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、現代数学やコンピュータ・テクノロジーなどで用いられている計算法についても学んでいきます。	この授業を通して、これまでに習ってきた一つ一つの数学的概念のルーツやそれを作り上げてきた人々の努力を知ること、数学をより身近なものとして再発見してくれることを期待しています。 数学を苦手だと思っている人からもっと数学を使いこなしたいという人まで、幅広く受講して欲しいと思います。	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学β	工	朝田 衛	後	数学において大切なことは、数学的なもの見方とその深め方です。そのようなことを知る素材を、長い数学の歴史の中から、また色々な分野（代数、幾何、解析）からいくつか取り上げて、新しい見方とそれがどのように深められていったかを解説します。	高校までの数学では「近くを通ったが登らなかった山」に少し登るような内容で、数学的なもの見方を知る素材を取り上げます。「問題の解き方」「計算の仕方」も大切ですが、この講義ではそのような意識を少し弱めて、昔の人々が「どのような着想をしたか」という点に意識を集中させてその面白さを感じ取って欲しいと思います。	○		○
人と自然と物理学	工	萩原 亮ほか	後	‘物理学’の言葉から、人と離れたところにある冷たい数式ばかりを連想する人も少なくないだろう。しかし、物理学は、昔から人間が自然現象を粘り強く見つめて、そこに潜む謎や規則を追い求め、苦難の末にその知識を活用できるようになるまでの人の営みの集積として成立してきた学問である。本講義では、こうした物理学の生き生きとした側面を、物理学における考え方の本質的特徴、様々な発見や進歩が人間社会に対して果たしてきた意味と役割などを考察することによって、できるだけ平易に紹介・説明したい。 講義は、実際に物理学を研究手段にしている複数の担当者によって、それぞれ独自の切り口・視点をテーマにして、物理学の各分野を広く見渡す形で進める。	言葉を使って考えることの重要性を知ってほしいと思います。数学力より文章の読み書きの力がものをいう、皆さんにとって意外な物理学の入り口をお見せします。 物理が我々の日々の生活のうえでとても身近な存在であること、また生活を豊かにする楽しい分野であることを再認識してほしいと願っています。	○		○
生物学的人間学	医	小野 勝彦ほか	前	「人間」はさまざまな角度から眺めることが出来る。哲学的、文学的、社会的な観点から、などなど。理科系の視点からでも多様な見方（物理、化学などなど）ができるが、本講義では生物学的視点から人間を還元学的に理解しようとするものである。すべての生物は、細胞→組織→器官（臓器）→個体という階層性を持っている。この普遍性を土台として、生物としての人間の特殊性を見ていく。前半で、普遍性を求めて細胞レベルからの理解（さいぼうがくてき人間学）につとめ、後半では臓器・器官レベルからのアプローチ（かいぼうがくてき人間学）を、特殊性を考えつつみていく。最後の講義では、総体としてのヒトを眺めるため、動物の行動についても紹介する。	できるだけ誰でもわかるように細胞や器官を紹介していく。特に、世間で流布されている細胞や内臓や体に関する「うわさ」の類が本当かどうか、明らかになっている範囲で紹介する。こむつかしいことを考えなくても、30～60兆の細胞から成る自分の体を少しでも知りたいたい人に受講してもらいたい。性のお話も含まれます。ただし、試験は少々こむつかしいかも知れない。	○		
意外と知らない植物の世界	機	松谷 茂ほか	後	多種多様な植物を、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行うことによって文理横断の内容を多角から展開し、植物に対する認識を新たに形成する。 文系ではイギリスの歴史・文化、また日本の文化、とりわけ美術・文学に登場する文様を含めた植物表現について西洋と比較し論考、理系では植物や植物園に関する知識、また人間生活との関係性から染料や薬草あるいは動物とのかわりなどについて論考し展開する。大学に隣接し日本トップクラスの植物を保有する京都府立植物園を教育活動実践の場としてフィールドワークの観察を行い、植物の持つ不思議や謎を追及する中、その生きざまや死にざまについて思索する。 このような学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士のinteractiveな討論が期待できる。例えば植物を歴史・文化的観点から捉えた場合、時代・地域・社会によりその意味付けが変化していくことが理解できる一方、理系では、植物をサイエンスの対象として捉えるなど、文理の視点の違いを相互理解し、異分野の学生同士が交流しながら多角的な見方を獲得することにより、学問上の発展につなげていくことを目指す。	[松谷]植物観察の秘訣は、不思議と謎を感じることに。『現場が教科書』を実感しましょう。 [後藤]私たちは動物です。植物との関わりを学習し、生物学的多様性を理解しましょう。 [野口]身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。 [浦川] 1. 衣服を染める天然染料の多くは植物由来です。天然染料について知ろう。 2. 海藻と海草はちがうのか？ [中野]最も身近なモチーフであり、現在の私たちの生活の中にもあふれている植物のデザインを見てみましょう。 [井戸]古くから日本では植物を象る美術作品が多く作られてきました。そのような形象の制作背景を探っていきましょう。	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
科学史	工	大西 琢朗	後	科学の歴史は、事実や法則の発見の歴史であると同時に、それらを発見し確かめるための「方法」の歴史でもあります。現在ではそうした「科学的方法」こそが、知識の客観性を保証する絶対的な基準のように考えられていますが、じっさいにはそれらは歴史上のある時点で生み出された、歴史的で、偶然的な存在でもあります。また、科学と言っても一枚岩ではなく、そこには異なる起源と発展経過をもつ複数の流儀（スタイル）が並存しています。この講義では、そうしたスタイルのいくつか（具体的には、確率・統計、証明、実験）の歴史を概観し、それを通じて、科学の客観性と歴史性・多元性とのあいだの微妙な関係について考察します。	ひとは既存の枠組みを完全に離れてものを考えることはできませんが、歴史を学ぶことで、そこから少し自由になれるように思います。科学や数学についての知識はとくに前提しませんが、どうぞ気軽に積極的に授業に参加してください。	○	○	
環境問題と持続可能な社会	工	山田 悦	前	日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、環境倫理、自然生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。 また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。	環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や自然共生社会への関心を深めてほしい。	○		○
食と健康の科学	府	東あかね ほか	前	テーマ：日本人の食と健康 日本人の食と健康の現状を健康科学、調理学、食品科学等の科学的な観点からオムニバス形式で概説する。 ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」の意義を知り、わが国及び世界の食と健康の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。	京都市立大学食保健学科教員と、京都和食文化研究センターの客員教授を中心とした多彩な講師陣による講義を行います。その後、関心のあるテーマについてレポートを作成し、輪読と討論を行います。	◎		○
キャンパスヘルス概論	工	荒井 宏司	前	健康の意義を学び、肉体的、精神的な自らの健康を創造することをサポートする。最新の医学に基づき、これから大学生活において、また社会に出てから遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付ける。 誰もが一つずつ持っている「人体」は、すぐ手の届くところにある現代科学のフロンティアである。自らの身体で「科学する心」を学び、巷にあふれる誤った健康情報に対する耐性を身に付けることも目的とする。	これから始まる大学生活を乗り切りたいものにするためには、まず諸君自らが健康であらねばなりません。この講義では、最新の医学に基づき、これから皆さんが会うであろうさまざまな病気に関する正しい知識を身に付け、巷にあふれるトンデモ健康法に対する耐性を持ってもらおうと思っています。	○	○	○
時間生物学特論 (3回生以上 (修士課程大学院生を含む。))	医	八木田 和弘	集中・夏	生物は約37億年前に誕生してから地球の自然環境に適応することで繁栄を遂げてきた。その過程で、地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして、自らの体内に精巧な『時計』を作り上げた。この日周性変化を予測する生物装置が『体内時計』である。 バクテリアからヒトを含む哺乳類に至るまで、地球上のほとんどの生物に『体内時計』が備わっており、生体機能の『概日リズム』を発現させている。本集中講義では、体内時計の基礎から疾患との関連まで体系的に議論する。 ※3回生以上（修士課程大学院生を含む。）を対象	『体内時計』ってなんだ？最近テレビや雑誌などでもよく目にするようになった『体内時計』。生命の神秘を感じる話題から、睡眠や食事のタイミングといった身近な話題まで、『からだの時間』を科学します。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
エネルギー科学	工	林 哲介	前	<p>身のまわりには、力学的エネルギー、熱エネルギー、電力エネルギー、原子エネルギー、光エネルギーなど各種のエネルギーがあります。授業の前半では、これらを古典物理学の枠組みに沿って系統的に追跡し、エネルギーの原理を理解します。そして後半には、これらを基礎にして原子力発電やエネルギー開発、地球温暖化等の現代の問題について検討します。</p> <p>大学入学までに物理学を学習した人が、そうでない人に対して解りやすく説明し、また後者が前者に納得いくまで質問するという学習方法によって、数式に悩まされない言葉による理解を進めます。</p>	<p>文系をはじめ高校で物理をやらなかった人と、物理を選択した人とでグループをつくり、テーマごとに用意したテキストをもとに説明や議論を行い、言葉による理解を深めていきます。後半には、原子力発電やエネルギー開発、地球温暖化などの問題について認識を深め討論します。物理をやってこなかった人も、子どもたちや一般の人の疑問にも判りやすく説明できるような平易な理解を得る良い機会になります。</p>	○		○
現代科学と倫理	府	岩崎 豪人	前	<p>現代科学にかかわる様々な倫理的な問題を考える。科学技術倫理の基本的な考え方を学びながら、現実の問題への倫理的な対応を考える。現代社会は科学技術の様々な恩恵を受しているが、一方で、その危険性も顕在化し、科学技術に対する不安も大きくなってきている。身近な技術的製品のリスクから、社会を変えていく科学技術まで、根本的な所までさかのぼって、問題をとらえ直し、吟味、検討を行う。具体的な問題を取り上げながら、当たり前に思っていることが、実はそうではないことを認識し、社会への理解と自分への理解を深める。</p>	<p>講義形式で基本的な論点は整理しながら、具体的な問題を議論します。倫理的な問題を考えていくには、自分の感覚だけでなく、他の人の感じ方や意見も知りつつ、どうしていくべきかを考える必要がある。授業中に自分の意見を言うように、積極的な授業参加を期待します。</p>			○
医学概論 (2回生以上)	医	渡邊 能行 ほか	後 (午前)	<p>近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療はますます高度化・複雑化しているが、医学・医療は人々の健康で快適な暮らしに直結する課題でもあり、医療従事者以外の一般人がより正しい知識を身につけることも必要である。</p> <p>また、「医工連携」(医療分野と工学分野の連携)、「医福食農連携」(医療・福祉分野と食料・農業分野との連携)が進む今日において、工織大及び府大の学生が今後、幅広い分野において活躍するためにも、医学の知識は非常に重要な基盤となりうる。</p> <p>本講義では、府立医科大学医学科の教員によるリレー講義形式で行い、基礎医学(感染病態学、免疫学など)、社会医学(保健・予防医学など)、臨床医学(病気の診断と治療に関すること)などをトピックとして講義することで、医学と実社会との関わりなどを学んでいく。</p> <p>※2回生以上の工織大・府大生を対象</p>	<p>医学は、人間が生を受けた瞬間から終生関わる身近な学問であるにも関わらず、学校教育において学ぶ機会は決して多くはありません。</p> <p>この授業では、最新の臨床現場や最先端の医学研究に関わる医大の教員が、講義形式で様々な医学に関する正しい知識をわかりやすく解説しますので、幅広い専攻分野の学生の参加をお待ちしております。</p>		○	
環境論	機	田中 和博	後 (午前)	<p>まず、地球環境の歴史を振り返りながら、オゾン層の破壊や地球温暖化などのグローバルな環境問題について学習します。つぎに、近代化や経済発展とともに生じた各種の公害問題、及び、レイチェル・カーソンが問いかけたものについて学習します。その後、現代社会における食と暮らしの安全・安心について考えるとともに、環境と経済との関係、環境思想の流れなどについて学習します。最後に、京都における森林保全活動を題材にして、市民が身の回りの環境問題にどのように取り組んでいるか、そこでの課題などについて解説します。</p>	<p>環境論を学ぶには、まず、身の回りの環境に関心を持つことから始めるのがよいと思います。そして、歴史的な経過、現状、各種要因との相互関係について、体系的に学習することが必要です。日頃から、新聞や雑誌に目を通したり、テレビの特集番組などを視聴するなど、様々な環境問題に対して積極的に関心を持つようにしてください。また、疑問に思ったことは、自分でも調べて復習してください。</p>	○		○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の自然と森林	府	高原 光 ほか	前	<p>京都府の自然の基本的な構成要素である地形や気候などについて解説し、それらと現存植生との関係や様々な森林の特徴、京都の代表的な自然生態系、植生変遷と人との関わりによる歴史的な自然の変遷などについて解説する。</p> <p>さらに、病虫害や鳥獣害、災害などによる森林の衰弱・衰退などについて解説し、京都府の自然がかかえている問題を考える。</p>	<p>京都の究極の自然は森林です。その森林のダイナミックな営みを知ることによって、自然を見る目を養い、私たちの生活環境でもある自然を理解しましょう。</p>	○		
京都の農林業	府	寺林 敏 ほか	後	<p>わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。</p> <p>一千年以上もの間、都であった歴史的な古都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。</p>	<p>9人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。</p> <p>成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。</p>	○		
京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール)	府	間藤 徹	集中	<p>8月5日に開講し、ほぼ毎月1回、石割農園(京都市南区吉祥院)に向いて石割さんの指導の下に大根、ブロッコリー、蕪などの冬野菜の栽培を行う。一連の作業を通じて、圃場の準備、苗作りと播種、栽培、収穫から出荷までを体験する。大学からスクールバスで移動する。このため、毎回農作業が出来る服装で参加してほしい。特に靴と手袋(軍手)を用意してほしい。</p>	<p>農家とは作物の栽培だけでなく、地域の景観を維持し、土壌河川湖沼などの環境を保全し、後継者を養成しながら、作物を生産して市民の食生活、地域の食文化を支え、その上で農家として生計を立てて経済を支える企業体である。単に、植物が好き、栽培が上手、だから農家が出来るといったものではないことを体験し、その中で農業の学理(農学)を学ぶことの重要性に気がついてほしい。</p>	○	○	

《リベラルアーツ・ゼミナール》

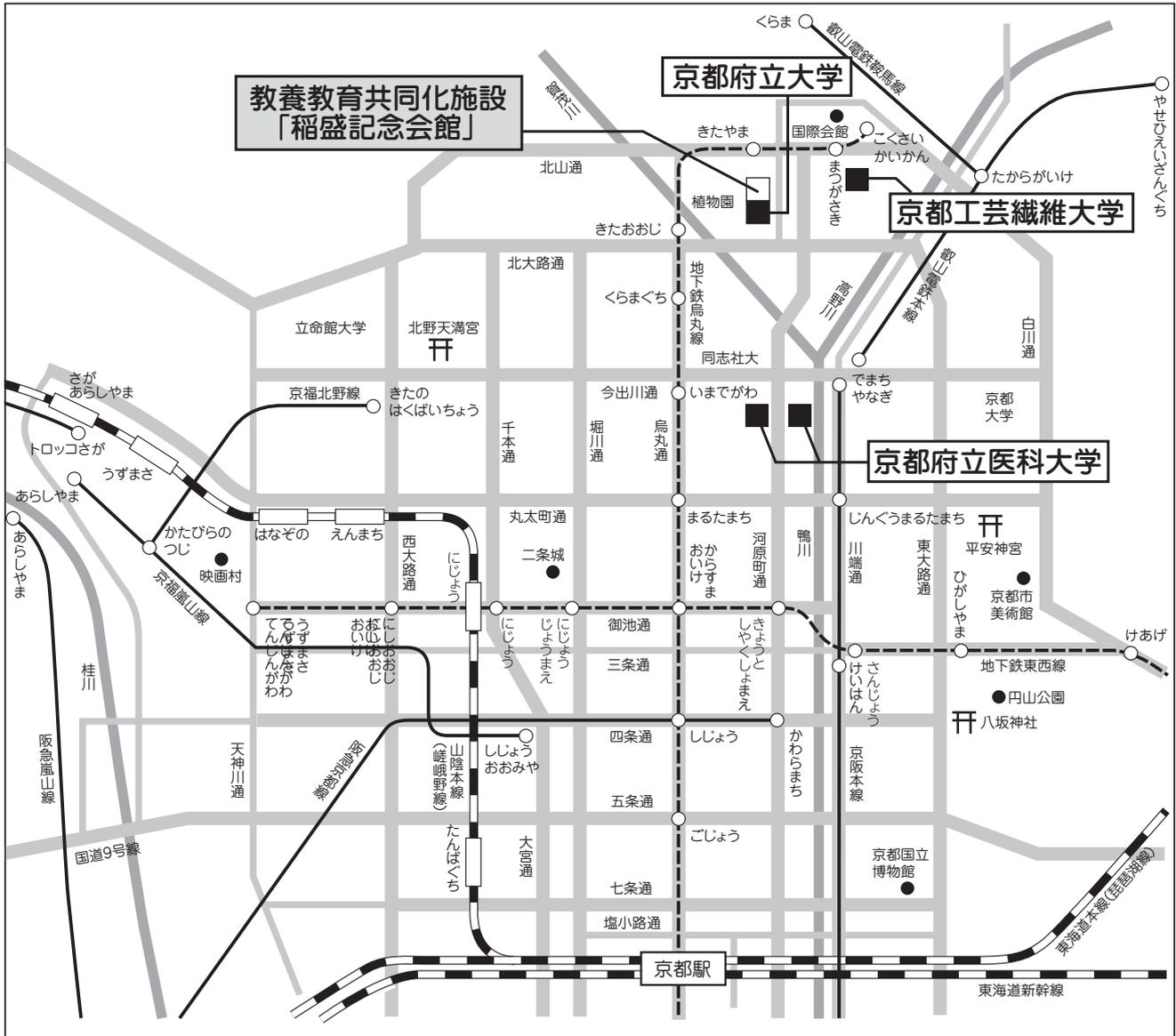
科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅣ)	機	石田 昭人	後	<p>身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成する講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。</p> <p>文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることが出来る意欲的な学生の受講を期待する。2回生以上の受講も歓迎する。</p>	<p>メガネや保温マグカップは何で出来ている?と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは? 「ヒートテック」はどうしてあんなに暖かいの? 素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探求しましょう。</p>	○		○
京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール) (再掲)	府	間藤 徹 ほか	集中	<p>※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「人間と自然」の「京都学」を参照のこと。</p>		○		

キャンパスガイド

共同化科目開講場所について

共同化科目は、原則として京都府立大学下鴨キャンパス敷地内の**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」**で開講されます。

受講者は、次ページ以降に掲載されている地図や交通手段などを参考にして、時間に余裕をもって移動できるよう心掛けて下さい。



教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

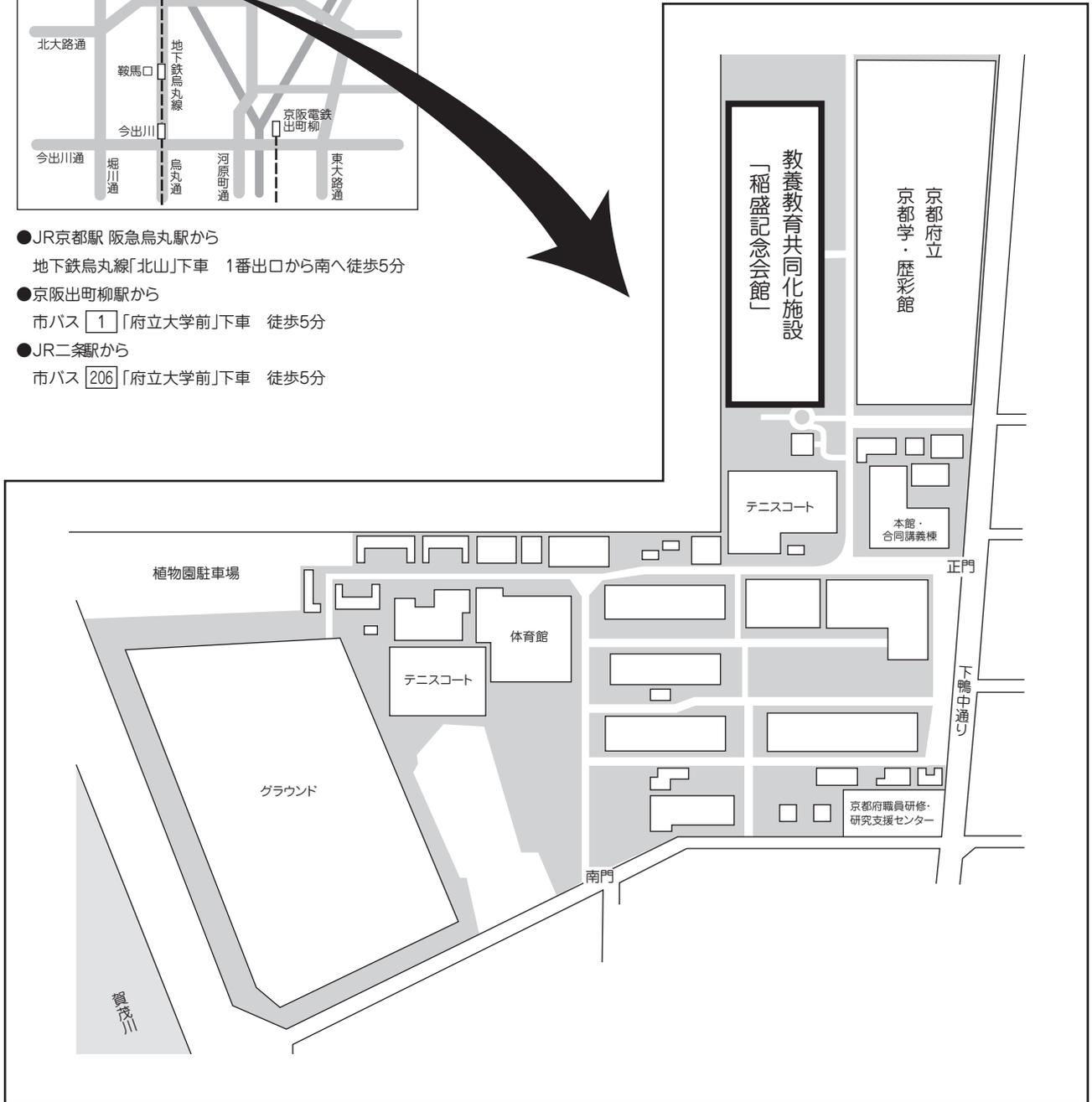
京都府立大学下鴨キャンパス
 京都市左京区下鴨半木町1番5

京都府立医科大学下鴨キャンパス
 京都市左京区下鴨半木町1番5 教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

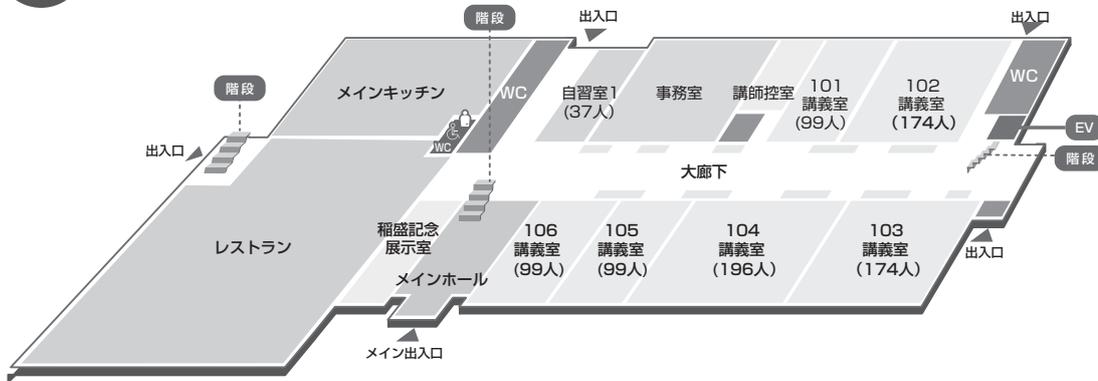
京都府立大学下鴨キャンパス



- JR京都駅 阪急烏丸駅から
 地下鉄烏丸線「北山」下車 1番出口から南へ徒歩5分
- 京阪出町柳駅から
 市バス 1「府立大学前」下車 徒歩5分
- JR二条駅から
 市バス 206「府立大学前」下車 徒歩5分

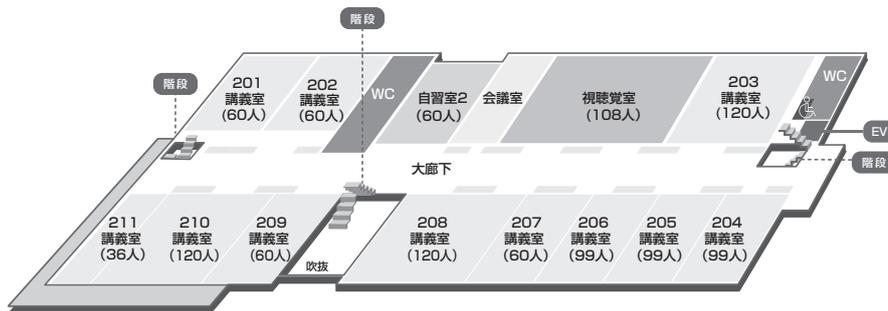


1階 府民利用・学生交流フロア



- ▶ 講義室6室
 - ・196人：1室
 - ・174人：2室
 - ・99人：3室
- ▶ 自習室 (37人)
- ▶ 稲盛記念展示室
- ▶ レストラン
- ▶ 事務室

2階 学生講義室フロア



- ▶ 講義室11室
 - ・120人：3室
 - ・99人：3室
 - ・60人：4室
 - ・36人：1室
- ▶ 自習室 (60人)
- ▶ 視聴覚室

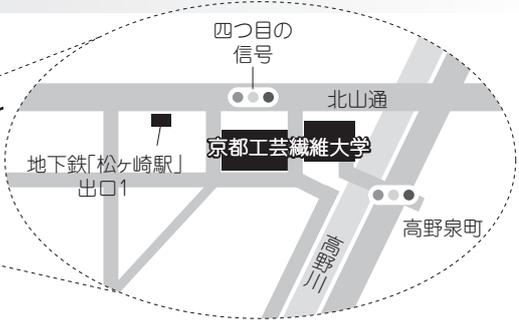
3階 研究等フロア

医大研究室、化学実習室、生物学実習室、物理学実習室、実験準備室、コンピューター室、研究ゼミ室 (16人：3室) 等

京都工芸繊維大学

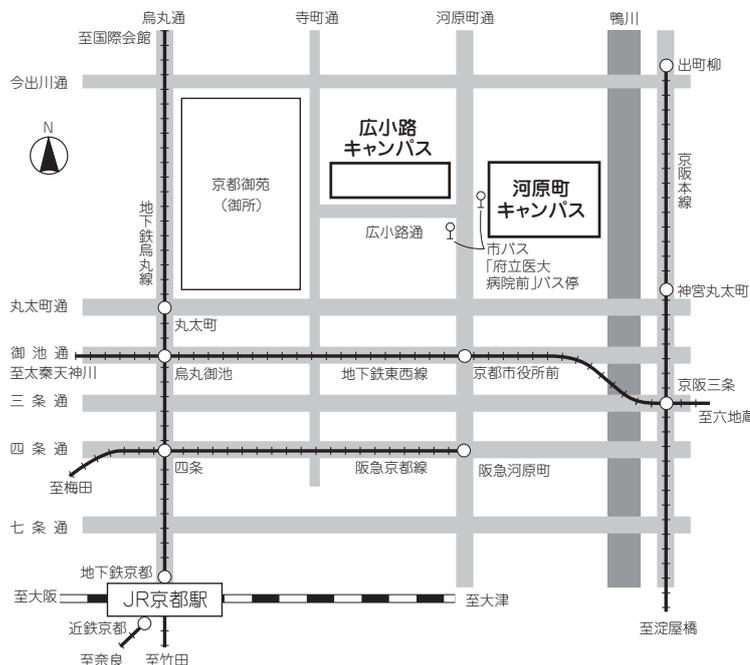
松ヶ崎キャンパス

京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地



- 地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩8分。
(1番出口から東(右)へ進み4つ目の信号を南へ180m)
- 「松ヶ崎」駅へはJR・近鉄「京都」駅から
地下鉄烏丸線「国際会館行き」に乗り換え約18分
※地下鉄烏丸線は、阪急「烏丸」駅からも乗り換え可能です。

京都府立医科大学



河原町キャンパス

京都市上京区河原町通広小路上の梶井町465

広小路キャンパス(看護学学舎)

京都市上京区清和院口寺町東中御霊町410(上京区広小路通河原町西入る)

JR京都駅 (正面)から	市バス4,17,205系統	「府立医大病院前」 下車	河原町・広小路キャンパス
阪急電鉄 河原町駅から	市バス3,4,17,205系統	「府立医大病院前」 下車	
京阪電鉄 三条駅から 京都市営地下鉄 (東西線) 三条京阪駅から	市バス37,59系統 京都バス23,43系統	「府立医大病院前」 下車	
京阪電鉄 神宮丸太町駅から	徒歩10分		
京阪電鉄 出町柳駅から	徒歩15分		

平成29年度 共同化科目開講時間割

前期

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学	
開講場所 曜日・コース	教養教育共同化施設「稲盛記念会館」ほか				
月 曜	2 10:30～12:00		フランス語圏の文化とジャポニスム (※2回生以上) (吉川順子)	映画で学ぶドイツ語と文化 (※3回生以上) (青地伯水)	
	3 12:50～14:20	現代社会に学ぶ問う力・書く力a (リベラルアーツ・ゼミナール) (児玉英明)	日本近代精神史(伊藤 徹) 現代教育論(塩屋葉子) 生物学概論Ⅰ(疋田 努) 環境問題と持続可能な社会(山田 悦)	京都の歴史Ⅰ(菱田哲郎ほか) 国際政治(依田 博) 現代京都論(大島祥子) 物理学Ⅰ(春山洋一) 社会学Ⅰ(井口 暁)	医史学(八木聖弥)
	4 14:30～16:00	近代京都と三大学 (宗田好史ほか)	日本近現代文学(高木 彬) 美と芸術(三木順子) 化学概論Ⅰ(三木定雄) 人と自然と数学α(峯 拓矢) キャンパスヘルス概論(荒井宏司)	京都の文学Ⅰ(赤瀬信吾) 食と健康の科学(東あかね ほか)	日本文学Ⅰ(早川久美子) 人文地理学Ⅰ(阿部美香ほか) 生物学的人間学(小野勝彦ほか)
	5 16:10～17:40	経営哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上) (児玉英明)	比較宗教学(長岡徹郎) 日本史(鬼頭尚義) 西洋文学論(山下大吾) 心理学(大谷芳夫) エネルギー科学(林 哲介) 人権教育(杉本弘幸)	アジアの歴史と文化(井上直樹) 現代社会とジェンダー(小沢修司ほか) 食環境をめぐる国際社会と日本(宗田好史ほか) 京都の自然と森林(高原 光ほか) 現代科学と倫理(岩崎豪人)	

後期

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学	
開講場所 曜日・コース	教養教育共同化施設「稲盛記念会館」ほか				
月 曜	1 8:50～10:20			医学概論(※2回生以上の工織大・府大生が対象)(渡邊能行ほか)	
	2 10:30～12:00	環境論(田中和博) 京都学・歴史館ゼミ (リベラルアーツ・ゼミナール) (※2回生以上)(藤本仁文ほか)		映画で学ぶ英語と文化 (※3回生以上) (出口菜摘)	
	3 12:50～14:20	社会科学の学び方 (リベラルアーツ・ゼミナール) (児玉英明) 製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール) (石田昭人) 意外と知らない植物の世界 (松谷 茂ほか)	哲学(伊藤 徹) 東西文化交流史(オーガスティン・ジョナサン) 京の意匠(並木誠士) 政治学(竹本知行) 科学史(大西琢朗) 生物学概論Ⅱ(疋田 努)	京都の歴史Ⅱ (小林啓治ほか) 京都の経済 (川勝健志) 社会学Ⅱ (井口 暁)	文芸創作論(藤田佳信)
	4 14:30～16:00		科学と思想(リベラルアーツ・ゼミナール)(林 哲介) 環境と法(鳥谷部嬢) 人と自然と数学β(朝田 衛) 人と自然と物理学(萩原 亮ほか)	ヨーロッパの歴史と文化(阿部沢児ほか) 京都の文学Ⅱ(赤瀬信吾) 現代社会と心(石田正浩)	宗教と文化(田中純子) ラテン語(松本加奈子) 日本文学Ⅱ(早川久美子) 人文地理学Ⅱ(春日あゆか)
	5 16:10～17:40	現代社会に学ぶ問う力・書く力b (リベラルアーツ・ゼミナール) (児玉英明) 英語で京都 (※3回生以上)(金澤 哲)	西洋文化論(山下太郎) 経済学入門(人見光太郎) 京の産業技術史(山田由希代) 化学概論Ⅱ(石川洋一) 地球の科学(酒井 敏)	生活と経済(小沢修司) 京都の農林業(寺林 敏ほか)	

集中開講

夏 期	現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール) (田村うらら) (8月11日 2～5コース、12日 1～4コース)	機構
	現代社会と映画制作(リベラルアーツ・ゼミナール) (長坂 勉) (8月17～18日、8月24～25日 各3・4コース)	機構
	感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (桑子敏雄) (8月22日～23日 各2～5コース)	機構
	生命科学講話 (塚本康浩ほか) (8月28日～30日 各2～5コース、8月31日 2～4コース)	府大
	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。)) (八木田和弘) (9月4日～5日 各1～4コース)	医大
発達心理学 (小川恭子) (9月5日～7日 各1～5コース)	医大	
8月～12月	京野菜を栽培する(リベラルアーツ・ゼミナール)(間藤 徹) 京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール) (間藤 徹) (8月5日、6日、26日、27日各1～2コース、10月1日、11月3日、12月23日、12月24日各4～5コース)	府大
冬 期	アメリカと中国はいま (リベラルアーツ・ゼミナール) (脇田哲志) (12月25日 1～4コース、26日 2～5コース)	機構